

様式 7 - 1

平成 18 年度開始 交付金プロジェクト研究課題 事前評価結果

課題名：北方天然林における持続可能性・活力向上のための森林管理技術の開発

主査氏名（所属）：佐藤明（研究管理官）

担当部署：北海道支所、東北支所

参画機関：筑波大学

研究期間：平成 18～22 年度

1. 目的

北海道、東北地方の北方天然林では、エゾマツ、ヒバ、有用広葉樹等の重要な資源が枯渇してきたため、それらの再生技術の確立が急がれている。また、近年、持続可能な森林管理が国際的に強調される中で、天然林施業においてはとくに生態系保全への配慮が求められている。そのため、択伐等の天然林施業が更新過程や生態系へ及ぼす影響解明と環境インパクトの低減指針の開発をもとに、木材生産と生態系保全の共存を目指した天然林管理技術の開発を行う。

2. 終了時に得たい成果

（1）北方天然林におけるエゾマツ等針葉樹の更新促進と生物多様性維持のための枯死木管理指針、および伐木集材インパクトを軽減し木材生産性向上のための択伐作業指針を開発する。

（2）ヒバの更新・成長促進と混交林への誘導技術、および植栽木の成長不良やブナ更新不良による低質二次林をブナ等有用広葉樹混交林へ誘導するための施業指針を開発する。

（3）木材流通の動向、枯死木管理指針、伐木集材インパクトの低減策を導入した北方天然林の持続可能性向上のための森林管理システムを提示する。

3. 評価委員の氏名（所属）

小鹿勝利（筑波大学大学院生命環境科学研究科教授）

4. 評価結果の概要

本プロジェクトは北方天然林の資源保続問題はじめ、必要度の高い課題を中心に研究計画が立てられているが、計画作成にあたり国有林はじめ現場関係者との意見交換が行われたことは、実用化を目指したものとして評価される。なお、個別技術の改良は不可欠であるが、個別技術を体系づけなければ森林施業の改善はありえない。本プロジェクトの最終的な目標も、個別課題の成果の総合化による「森林管理システムの開発」であり、そのためには各研究グループ相互の連携、成果の総合化などに十分配慮することが必要である。

5. 評価において指摘された事項への対応

適宜、現地検討会等を開催し、森林管理の現場からの意見を汲み上げるとともに、各研究グループ相互の連携を深めて、個別課題の成果の総合化を図っていく。